

## 授業改善シート

記入者名（ ） 対象児童生徒（ 高等部男子 ）

### 実態把握

○学習指導要領（H30）の段階の内容との照合 ※8割以上（○）、4割以上～8割未満（△）、4割未満（×）

小学部1段階

（知・技）

ア 言葉の特徴や使い方に関する事項

ア-（ア）身近な人の話し掛けに慣れ（○）、言葉が事物の内容を表していることを感ずること（△）。

ア-（イ）言葉のもつ音やリズムに触れたり（×）、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること（△）。

イ 我が国の言語文化に関する事項

イ-（ア）昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと（○）。

イ-（イ）遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること（×）。

イ-（ウ）~~㊦~~ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること（×）。

イ-（ウ）~~㊧~~ 筆記具の持ち方や（×）、正しい姿勢で書くことを知ること（×）。

イ-（エ）読み聞かせに注目し（○）、いろいろな絵本などに興味をもつこと（○）。

（思・判・表）

A 聞くこと・話すこと

ア 教師の話や読み聞かせに応じ音声を模倣したり（×）、表情や身振り（○）、簡単な話し言葉など（×）で表現したりすること。

イ 身近な人からの話し掛けに注目したり（○）、応じて答えたりすること（△）。

ウ 伝えたいことを思い浮かべ（△）、身振りや音声などで表すこと（○）。

B 書くこと

ア 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり（×）、選んだりすること（×）。

イ 文字に興味をもち（×）、書こうとすること（×）。

C 読むこと

ア 教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き（○）、注目すること（○）。

イ 絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること（△）。

ウ 絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること（×）。

エ 絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり（△）、登場人物の動きなどを模倣したりすること（×）。

○学習到達度 CL による実態把握

4月のスコア ⇒ めざすスコア

<聞く> 8 ⇒ 8

<話す> 8 ⇒ 8

<読む> 12 ⇒ 12

<書く> 6 ⇒ 6

○学びの履歴

鏡に向かって声を出すことが5割程度できたり、絵で示された怒った顔や笑った顔を見つめ、選ぶことが8割程度できたりした。ペーパーサートに注目して話を聞き、教師が指さしたパスに視線を移したり、追視したりすることができた。「固い」「柔らかい」などの物の状態を表す言葉に気付き、教材に肘を伸ばして触ったり、自ら口元に教材を引き寄せて感触を味わったりすることができた。また、教師から言葉で指示された感触の教材を視線や肘の動きで選ぶことが増えた。

### 授業計画

○単元名「身近な人と話をしよう～お話の宝箱～」

○単元の指導目標

①身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感ずる。（知識及び技能）

②身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりする。（思考力・判断力・表現力等）

③言葉を通じて積極的に人と関わったり、思い付いたり考えたりしながら、言葉で表すことやそのよさを感じようとしているとともに、言葉を使おうとする。（学びに向かう力・人間性等）

○授業の概要

本単元では、題材として「もっかい！」と「おやさいどうぞ」いう二つの絵本を使い、「お話の宝箱」という単元を設定した。前者の題材では

「本」「もう一回」、後者の題材では「野菜」という言葉を使う。

実際の授業では、授業の初めに二つの題材を表した宝箱を提示し、本生徒に身振りや視線、発声などで選ばせる。「もっかい！」では、作中に何度も登場する「もっかい！」という言葉聞いて、作品が繰り返し読まれる体験しながら「本」「もう一回」という言葉の意味を感じ取らせる。また、単元の中盤以降は、教師へ注目して要求をするように間を作りながら促し、VOCAなどを活用して自ら「もう一回」と伝えられることを目指して学習を進める。卒業後の目指す姿に向けた身に付けさせたい力として、「日常生活の中で自分の気持ちや要求を何らかの手段で伝えることができる。」との関連を踏まえて、自分の好きな活動を誰かに伝えるための言葉の理解を促し、自ら表出する力や気持ちを高めたい。「おやさいどうぞ」では、タブレットPCを使い、強調したい擬音語を感じ取らせたり、教師がその擬音語を復唱して伝えたりすることで、擬音語とそれがあらわすものを感じ取りやすくしながら学習を進める。胃ろうのため日常生活では直接口から摂取することはほとんどないが、身に付けさせたい力「興味のある対象に向けて、自ら手を伸ばしたり働き掛けたりすることができる」との関連を踏まえて、においや感触、音などの感覚を使っているいろいろな視点で野菜を楽しみ、興味関心を引き出していきたい。

○本単元における主体的・対話的・深い学びのための教師の手立て

（1）主体的な学びに向かう視点 ①ーイ、①ーウ、②ーク、③ーコ、③ーサ、④ーチ、

（2）対話的な学びに向かう視点 ①ーエ、②ーカ、

（3）深い学びに向かう視点 ①ーア、②ーク、③ーコ、③ーソ

○本時の目標

①教師の言葉が表している身近な具体物に気付く。（知識及び技能）

②教師の働き掛けに応じて、自分なりの方法で答える。（思考力・判断力・表現力等）

③言葉を介して教師と自分なりの方法でやり取りをしようしたり、言葉聞いて、それが表すものを考えようしたり、自分なりの方法で表現しようしたりする。（学びに向かう力・人間性等）

児童生徒の学習活動	主体的・対話的で深い学びのための教師の手立て	評価のポイントとなる児童生徒の姿	備考
○キーワードや教師の働き掛けを受け、読みたい物語を選択する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>箱の中身を表す言葉を伝えた後に、具体物を見せて視線を誘導する。</li> <li>箱がゆっくり開く様子を見せて、期待感を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視線を使って読みたい物語の箱を見ているか。</li> <li>それに加えて声や肘の動きなどの表出があったか。</li> </ul>	
○選んだ題材の沿った活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>視線、発声などでの要求の明確化</li> <li>具体物や擬音語を手掛かりとした言葉の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確かな要求を引き出すために、本生徒にとって見にくい右側から働き掛けて表出を引き出す。</li> <li>効果音の後に擬音語を復唱して、言葉が表すものの特徴をつかませる。</li> <li>擬音語と学ばせたい言葉を関連させた後に具体物に触れさせて、より強く関連付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「教師と物を交互に見る」や「物や教師を見ながら声を出す」などの要求の行動が見られたか。</li> <li>教師の言葉が表す具体物を見ているか。</li> <li>擬音語が表す具体物を見ているか。</li> </ul>	

### 学習評価と指導者の振り返り

評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	言葉の特徴や使い方		聞くこと・話すこと	国語への関心・意欲・態度	
学習評価	本時の評価基準	言葉が表している身近な具体物に気付いている。	教師の言葉掛けと具体物を手掛かりに状況にあったやり取りをしている。	「もう一回」の言葉を介して教師と自分なりの方法でやりとりをしようしたり、「本」「野菜」の言葉を聞き、そのものを考えようしたり、自分なりの方法で表現しようとしたりしている。	
	本時の評価基準	A	「本」や「野菜」の言葉を聞き、具体物に視線を向けたり、声を出したりしていた。	教師の言葉を手がかりに視線で題材を選んだり、「もう一回？」の促しを聞き、肘の動きや発声で応じたりすることができた。	教師の「もう一回？」の促しの言葉に肘の動きや発声など様々な方法で応じようとしていたり、「本」や「野菜」の言葉が表すものに注目し続けて学習しようとしたりしていた。
		B	教師の指さしや擬音語などを手掛かりに「本」や「野菜」などの言葉を聞き、画面や具体物を見たり、声を出したりした。	教師の言葉と指さしを手掛かりに視線で題材を選んだり、「もう一回？」の促しを聞き、肘の動きや発声、視線で応じたりすることができた。	教師の「もう一回？」の促しの言葉に、肘や発声、視線などで応じようとしていたり、「本」「野菜」の言葉が表すものに視線を向けて学習しようとしたりしていた。
	C	目の前に提示された具体物の感触や擬音語などを手掛かりに「本」や「野菜」などの言葉を聞き、画面や具体物を見たり、表情や動きを変えたりした。	目の前で題材を交互に見せることで題材を視線で選んだり、「もう一回？」の促しを聞き、教師をじっと見ることで応じたりすることができた。	教師の「もう一回？」の促しの言葉に視線で応じようとしたり、「本」や「野菜」などの言葉に関心をもち、視線や表情を変えて学習しようとしたりしていた。	
教師の振り返り（授業後記入）	授業の振り返り	具体物を提示したり、においを感じさせたりすることで注目させることができた。より具体物の特徴を感じさせる時間が必要だった。	同じ展開を繰り返すことで「もう一回」の意図が伝わりやすくなった。また、教師の促しへ応じる頻度は5割程度である。	具体物の提示やにおい、効果音などを使って視線を誘導することができている。注目する時間は短い。教師の促しへ応答する姿は見られるが、視線や指の小さな動きが多かった。	
	授業改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>じっくりと言葉が表す具体物に触れさせ、特徴を感じさせる。</li> <li>気付いてほしい言葉以外の掛ける言葉を可能な限り減らし、表出を観察し、表出が見られなかった際には指さしなどの手立てを追加していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が言葉を受け止めて表出できるよう、言葉を掛けた後に十分に間を取る。</li> <li>視線に加えて発声や肘の動きなどが見られたときには、すぐにフィードバックして行動を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢や体の向きを整えて教師や具体物に注目しやすい環境を作るとともに、表出に対して称賛し、再び同じ行動を行うように意欲を高める。</li> </ul>	
	改善の結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体物を近くに提示すると肘でそのものに触れて特徴や感触、においなどを感じていた。</li> <li>「本」や「野菜」などの言葉を繰り返し掛けることで、その具体物をじっくり見つめる時間が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視線を教師と物とに行き来させたり、肘を細かく動かしたりして教師の「もう一回？」を期待するような様子が見られた。その時に「もう一回？」と声を掛けると勢いよく肘で応じることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>じっくり教師と本やタブレット PC を見て学習できる時間が増えた。授業の流れが分かり始め、教師の「もう一回？」の言葉を期待している様子があり、どのように表出しようか考えているような表情を見ることがあった。</li> </ul>	

### 単元の評価と今後の方針

単元の評価	達成度（ 8割以上 <u>4割以上8割未満</u> 4割未満 ）
	今単元では、教師の言葉（本や野菜、もう一回など）に対して、その具体物をじっくり見たり、腕や身体の動きで応じたりすることが7割程度できた。心理的に落ち着かない状態のときには、教師の言葉掛けに対して応答できないときがあったが、おおむね学習態度は良く、ほぼ全ての学習活動に参加することができた。単元を通して期待をする表情や視線の動き、しぐさが増えた。手の動きは制限があるものの、自発的に動かそうとする気持ちがあるため、具体物をよりじっくり触る活動を取り入れるべきだった。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>次回の単元に向けて（目標にかかわらず必要な手立てなど） 本生徒は見る力が高いため、学ばせたい言葉が表す具体物や活動などを提示して見通しをもたせ、五感を使った学習を設定する。また、視線の動きや表情、身体の動きなど大小全ての表出にフィードバックし、意欲を最大限高める手立てを講じる。</li> <li>次年度に向けて（教育課程へ反映すべき点など） 学習内容表を参考に教育課程や年間指導計画を設定しているため、「聞くこと」と「話すこと」とを分けて単元化しているが、「聞くこと」「話すこと」はどちらもやり取りの中で互いに強く関連しあっている。そのため、単元ごとに重視する方の内容を検討しつつ、同単元でどちらの内容も扱うべきなのではないかと考える。</li> </ul>